

「地震対策オペレーション2017」に参加

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、阪神・淡路大震災の発生から22年となる1月17日（火）、静岡県庁別館危機管理センターで実施された「地震対策オペレーション2017（大規模図上訓練）」に参加した。

この訓練は、南海トラフ巨大地震発生を想定した図上訓練であり、災害応急対策の検証と習熟を図るとともに、各防災関係機関との連携強化を目的としている。

訓練は約3時間行われ、地震発生から10・5時間経過後を想定し、人命救助対策及び浜岡原子力発電所の原子力緊急事態に対応した住民避難等の応急対策を図上で検証した。

静岡地本は、大規模震災が発生した際に県庁に最も近い自衛隊組織として県庁等へ速やかに連絡要員を派遣し、連絡・調整を行う任務を有しており、本訓練に参加した地本連絡要員は、本番さながらの状況下において、関係機関との連絡要領や情報の伝達要領について習熟を図った。

静岡地本は、今後も様々な機会を捉えて県庁をはじめとする関係機関との連携強化を図り、大規模災害発生時の対応に迅速に対応出来るよう万全を期していく。



先輩隊員が母校訪問

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、1月20日（金）、鈴木辰徳1等陸士の母校である高校訪問を実施した。鈴木1士は、県立吉原工業高校を卒業し、平成28年4月に一般曹候補生として陸上自衛隊に入隊。現在は朝霞駐屯地（埼玉県）の第1施設大隊交通小隊で勤務している。本年も同校から4名の後輩が自衛隊に入隊することとなり、先輩自衛官として自身が自衛隊で得てきたものを伝えるべく母校訪問を行った。

母校訪問では、まず入隊予定者との懇談を行い、入隊までの心構えや、入隊後の教育内容等について自らの経験を交えながら説明した。また、入隊予定者が現在不安に感じていることや、職種の設定等について質問があると、鈴木1士は先輩として丁寧に答え、後輩が感じている不安の払拭に努めていた。

その後、在校時に所属していた野球部を訪れ、部活の後輩へアドバイスやエールを送るとともに、職業としての自衛隊の魅力を伝えた。鈴木1士の話聞いた後輩は、この短期間で自衛官として、また社会人としても成長した先輩の姿や話し方等に驚いている様子であった。

静岡地本は、今後もすでに入隊している先輩隊員と連携を図り、母校を含めた多くの若者に自衛隊の魅力を発信するとともに、国防や災害派遣に意欲を持つ人材の確保に努めていく。

